

## それぞれが主人公の、新しい田村史づくり



地域再生を考える「復興シンポジウム 2013」が10月26日、市文化センターで田村市復興応援隊主催、市共催で開催されました。岩手県釜石市のNPO法人いわて連携復興センター代表理事の鹿野順一さんが基調講演し「故郷を取り戻せるのは住民の力であり、前向きになることが大切です」と訴えました。活動報告では、住民が主体となった復興の動きと題し都路町の住民2人が発表しました。自宅が避難指示解除準備区域で農業を営む坪井久夫さんは、事故後初めて出荷用のコメを栽培したことを報告し、首都圏の顧客がたびたび足を運んで応援してくれることを紹介。「住民が親密に付き合い、みんなで元気に農業を続けられるようにしたい」と決意を述べました。都路町第7区長の遠藤富寿さんは、地域の祭りや清掃活動を復活させた取り組みを挙げ「コミュニティを回復するには、地域内の奉仕作業を活発化させることが大切」と話しました。田村市復興応援隊は、住民が主体的に取り組む復興を実現するため地域に根ざした活動を行っています。

## 外国人とスポーツDE交流



都路チャレンジ教室と常葉町アソベンチャークラブが合同で、カナダのズンバや中国の太極拳、ニュージーランドのマリオ族のダンスを体験しました。午後は第3回都路チャレンジ教室を開き、ペイントグラスを作成しました。

## 13体のユニークかかし



常葉寿学級とアソベンチャークラブが共同で文化祭に出展するかかしを作りました。最初は互いに遠慮していましたが、すぐに打ち解け、寿学級生が先生になって骨組みを作り、衣装の着せ方を教えて、協力しながら完成させました。

## 緑に癒された学習会



船引地区女性学級が10月30日、「こけだまづくり教室」を開きました。滝田勉さんを講師に迎え、先生が準備したハーブやシクラメンを参考に、受講生は部屋のインテリアとして世界に一つだけのこけだまを作り上げました。

## 和気あいあい楽しい一日



都路・大越公民館共催のウォーキング教室が10月20日に行われ、33人が参加しました。北塩原村の「五色沼」を巡るコースで、参加者は松原湖の美しい色と木々の緑に心を癒されました。お昼はラビスパ裏磐梯で楽しみました。

## 船引地区文化祭



「心あたたまる文化を創造しよう」をテーマに10月26日と27日の2日間、開かれました。第59回福島県企画展をはじめ、各種団体や小中学校・幼児などの作品展示、チャリティーバザーや昔ばなし、お茶会などに多くの市民が訪れ、にぎわいました。

## 都路町文化祭



10月26日、27日の両日、3年ぶりに都路公民館3階ホールで開かれました。農作物は出品されなかったため、震災前の規模ではありませんでしたが、久しぶりに子どもたちやお年寄りが手掛けた作品が並び、多くの町民が見入っていました。

## 滝根町星の村文化まつり



作品展示をはじめ、七宝焼・ポップアップカード作りなどの体験コーナー、歌謡ショー、ビンゴ抽選会、よさこいや和太鼓の演奏、ジャンボスライダー、サンマすくいなどが行われ、多くの方々でにぎわいました。

## 常葉町文化祭



あいにくの台風到来にもかかわらず、東京の中野区造園緑化業協会が「頑張っぺふくしま」を合言葉に応援に駆け付け、葉ボタンやミニシクラメン、ジュリアンの花苗の無料配布、三角くじ・ヨーヨーすくいなどで文化祭を盛り上げてくれました。

## 大越町文化祭



「育てよう、豊かな心と文化の心」をテーマに文化団体や小・中学校生作品の展示、陶芸、茶道の体験コーナー、青年団員による餅つきが行われました。27日には民俗芸能発表会が開かれ、最後には三春盆歌を全員で歌い、楽しいひと時となりました。

## 珍プレー、好プレー



※クロリティー大会が11月6日、船引総合福祉センターで開かれ、北区長命会の34人が参加しました。優勝者にはトロフィーと景品が準備され、白熱した戦いになりました。夫婦で入賞するなど驚きの展開もあり、全員が楽しく体を動かしました。

※クロリティーとは、アメリカのゲーム(ホースシューズ)と日本の輪投げをミックスして考案されたスポーツ輪投げのことです。